

ブカシ・トレーニングセンター関係報告

- ❁ 1990年に日本の技術協力により設立
 - 水道・衛生関係のトレーニングセンター
- ❁ 1997年にインドネシア政府に完全移管
- ❁ 2016年に水道関係専門のトレーニングセンターとなる

- ❁ 水道の全て（浄水、送配水、電気・機械、その他）をカバーしている
- ❁ 一部施設は独自に新たなものを作っているが、設立時のままのものも多い

ISSUES after JICA's technical cooperation completed

- ❖ Lack of professional Human Resources especially for trainer
- ❖ Difficulty to achieve maximum training target due to instability Annual Budget that decided by central government
- ❖ Out of date facilities such as laboratories tools and workshop equipment
- ❖ Non-Practical Module Material and still using old material

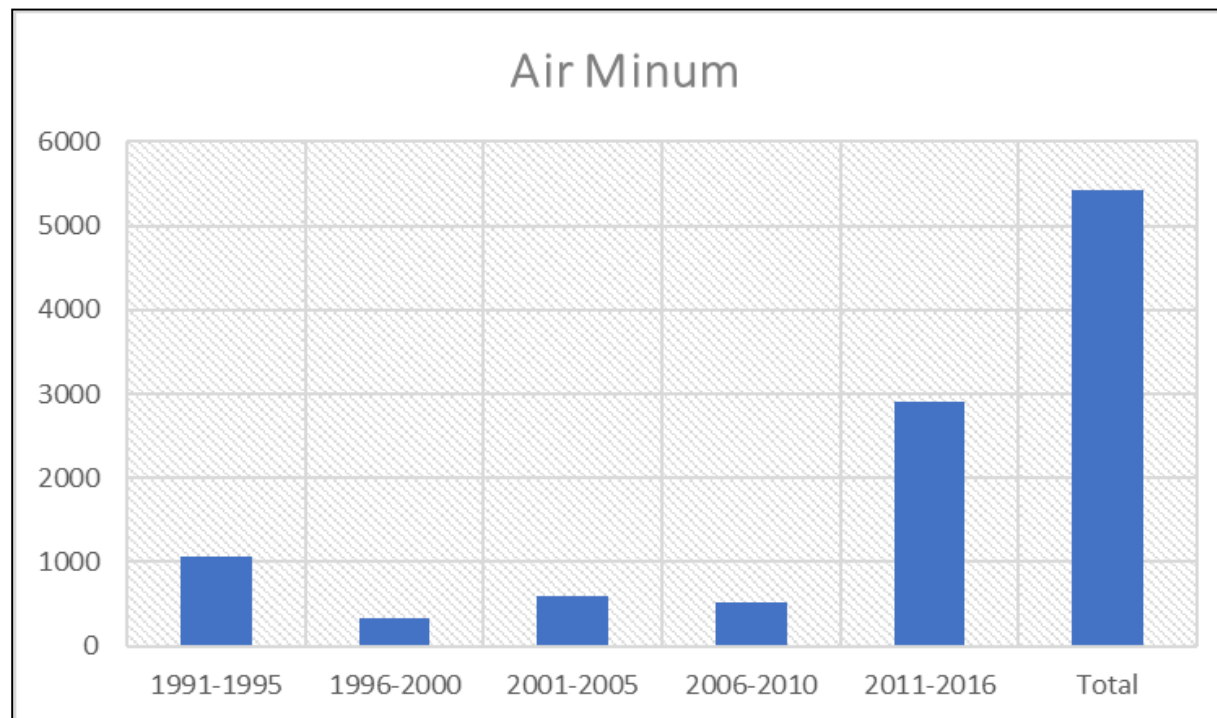
2017年度調査時の資料から

水道関係の研修状況

❁ 水道関係の研修受講者数

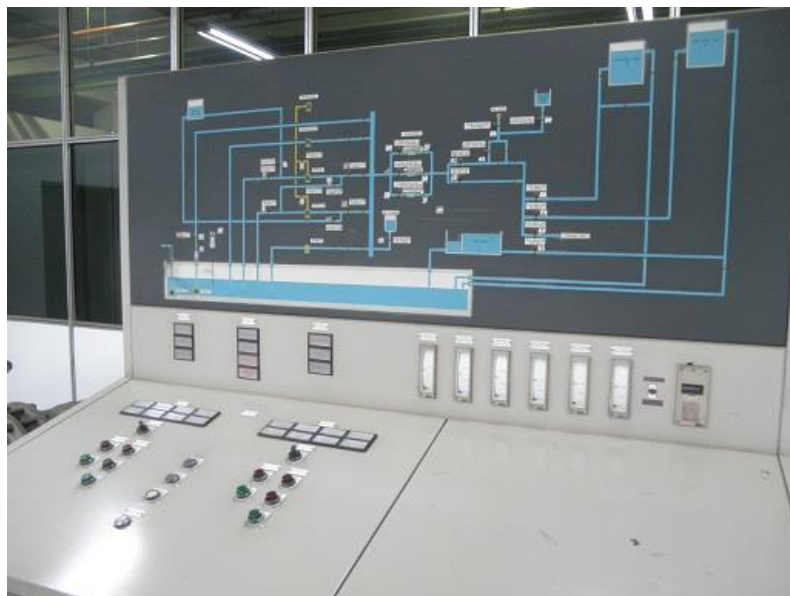
➤ 1990～2016年：約5,430名

➤ 2017年：249名



2017年度調査時の資料から

ブカシトレーニングセンター施設



技術支援に向けて (1)

❁ これまでの日本の支援

- ジャカルタ上水道整備事業
- ジャカルタ配水管網整備事業
- 地方都市水道整備計画
- 人材育成プロジェクト

- 草の根協力
 - ◆ 水道水質改善、浄水技術
 - ◆ 漏水防止

技術支援に向けて (2)

- ❖ 2017年度、2018年度調査でも、浄水場は整備されているが、運転、維持管理が不十分なケースが見られた
- ❖ 2017年度調査では、トレセン再活用案として給水装置関連の研修、モデルケースによる実証の提案をした
- ❖ 現時点でトレセンではアップグレードに関して優先順位はつけていない

技術支援に向けて (3)

- ❁ 地方での浄水場の運転管理状況、これまで日本がインドネシア各地の浄水場整備にかかわってきたことを考えると、浄水処理(Production)に関する研修のアップグレードが必要
- ❁ NRWはいまだに大きな問題であり、漏水防止および新しい技術の導入という面からも、給水装置関連の充実が必要
 - 現在も研修プログラムはある
- ❁ 人材育成の支援もやってきたことを考えると、一度、トレセンに集約して再構築することが将来的には望ましい

技術支援に向けて（4）

- ❖ インドネシア側は早急な支援を望んでいるが、JICAベースの支援を考えると、時間がかかること、日本側、インドネシア側双方で関係各所に理解してもらうことが必要
- ❖ 今年度は不採用となったが、トレセンとの継続的な協議のためにも専門家がいたほうがよい
- ❖ 2017年度、2018年度と2年続けてトレセンを訪問、協議しているが、まだ方向性が定まったとは言えない
- ❖ トレセンの再活性化に向けた調査ができればよいが、そうでない場合はこれまでのような厚労省の調査を活用して、案件の内容、確度を高める必要がある